

第1学年 国語科学習指導案

児童：1年1組 男子19名 女子13名
指導者：久保田 智 子
(すこやかサポート： 佐々木 幸 子)

1 単元名 こえにだしてよもう 教材名 「くじらぐも」

2 単元について

(1) 教材について

本単元「こえにだしてよもう」は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材「くじらぐも」は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生の子どもたちの前に、雲のくじらが現れ

るところからお話が始まる。子どもたちとくじらぐもは、一緒に体操をしたり、呼び合ったりする。そして、「こ

こへ、おいでよう。」というくじらぐもの言葉に誘われ、子どもたちはくじらぐもに飛び乗り、一緒に大空を旅

するというお話である。現実の世界から空想の世界へという巧みなストーリーの中で、子どもたちは、登場人物

と一緒に大空を旅する楽しさを味わうことのできる作品である。

文章は、5つの場面で構成されている。どの場面にも生き生きとした挿絵が描かれ、文と挿絵から場面の様子を想像しながら読み進めることができる。また、主述がはっきりしていて会話文も多く、声に出して読みながら、会話の対比のおもしろさや気持ちの高まりなどを想像し、物語を楽しむこともできる。

以上のことから、登場人物に同化しながら、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことに適した教材であるといえる。

(2) 子どもの実態

入学して半年、子どもたちはこれまでに、「はなのみち」「おむすびころりん」で挿絵と文を結び付けたり、登場人物になって動作化したりしながら場面の様子を想像する学習をしてきた。また、「大きなかぶ」では、場面の様子を想像しながら音読し、繰り返しにより山場へと高まっていくお話の展開や、言葉のリズムを楽しんできた。

これらの学習を通して、挿絵や文を手がかりにして、場面の様子や登場人物のしたことを想像しながら音読したり、想像したことを吹き出しに書いたりすることのできる子どもが増えてきた。

本校の研究内容である「教材文とのかかわり」では、叙述に即して文章を読み取ることができるよう、登場人物や様子が分かる言葉にサイドラインを引いたり、筆圧を意識して、正しく視写したりすることを行っている。音読では、姿勢や口形などに気を付けて、はっきりした声で読むこと、そして、ひとまとまりの語や文として読むことを指導している。音読や動作化を取り入れることで、より想像が膨らみ、場面にあった内容で吹き出しに書きまとめる子どもが増えてきている。

また「友達とのかかわり」では、ペアになり、自分の考えを伝え合い交流する中で、友達の考えを聞き、自分の考えを深めていく活動を繰り返し行ってきた。友達の考えをよく聞くだけでなく、話型提示をして、相手意識をもたせてから、考えをしっかりと伝えようとする子どもが増えてきた。また、友達と一緒に登場人物になりきって音読することも楽しむようになってきている。

(3) 指導にあたって

①教材文とのかかわり

学習計画の段階においては、今まで見た雲について交流したり、実際に外に出て雲を見て自由に想像を膨らま

せたりしながら本教材に出会わせることで、興味をもって読み進められるようにする。そして、挿絵に題を付けて、あらすじを押さえ、好きな場面を見つけたりおもしろかったところを紹介したりする中で、お話に出てくる1年生になって場面の様子を想像しながら読み進めること、最後にくじらぐもに手紙を

書くことという学習の見通しをもたせるようにする。

課題追究・課題解決の段階においては、子どもたちとその真似をするくじらぐものおもしろさを読み取ることができるように「・・・が」「・・・は」「・・・も」の3つの助詞に気を付けて読ませていく中で、くじらぐもや子どもたちの行動や会話をしっかり押さえながら、お互いが結び付いていく様子や心の交流について話し合わせていきたい。また、豊かに読み取らせるために、場面の様子や登場人物のしたことがよく分かるところを視写したり、子どもたちやくじらぐもの気持ちを想像して吹き出しを書いたりする活動を取り入れていく。場面の様子が鮮明に描けるように劇化も取り入れて、それぞれが書いた吹き出しを交流していく中から自分の考えを深めたり、友達の考えのよさを感じ取ったりさせていきたい。子どもたちとくじらぐもの行動や会話文に目を向けながら、それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って想像させていきたい。

単元の終わりでは、自分が見つけた雲の形から想像を広げ、お話作りをしていく。「雲と話したいことを書く」ことができた子どもには、そのお話の続きも考えさせる。作った作品をみんなで交流し合いながら、友達の見つけた雲のおもしろさやお話の工夫について感じるができるようにしたい。

②友達とのかかわり

音読では、役割読みを取り入れて、学級全員が物語の中の登場人物に同化しながら発表できるように目標をもたせる。また、それぞれが書いたことを発表していく中で、「もし、空の旅をすることができたら・・・、くものくじらに乗ることができたら・・・」という夢や願いをもたせて、授業を進めていきたい。そして、授業の中では、主に、ペア学習の形態で自分の書いた吹き出しを交流する場面も取り入れていく。その際には、自分の考えを深めていくだけでなく、友達の考えのよさも感じ取らせていきたい。

3 単元の目標

観 点	目 標
国語への関心・意欲・態度	・登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しもうとする。
書く能力	・相手（雲）と話したいことを考えながら、書くことができる。 (ア)
読む能力	・文や挿絵をもとに、話の大体が分かり、場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読むことができる。(ウ) ・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。(エ)
言語についての知識・理解・技能	・姿勢、口形などに注意し、はっきりとした発音で話すことができる。 (ア(ア)) ・新出漢字の使い方や言葉の使い方を理解することができる。 (イ(イ))(ウ(イ))

4 単元の指導計画と評価規準（11時間 読むこと 8時間・書くこと 3時間）

段階	時間	○学習の目標 ・主な学習活動	評価規準（評価方法）		
			国語への関心・意欲・態度	書く能力と読む能力	言語についての知識・理解・技能
学習計	1	○ 題名や挿絵から、話の筋やイメージをつかむことができる。 ・今まで見た雲について話し合う。 ・全文を読み、感想を発表する。	・物語に興味をもち、進んで読もうとしている。 (発言・挙手)	〈読む〉 ・挿絵や文章から、話の筋の大体を読み取っている。 (発言・挙手)	・新出漢字や片仮名の読み方や書き方を理解している。 (ドリル・音読)

画		<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や片仮名の練習をする。 			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画を立てることができる。 ・全文を音読し、好きな場面やおもしろいところを発表し合う。 ・挿絵に題を付け、学習計画をたてる。 ・新出漢字や片仮名の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場面やおもしろいところを進んで見つけようとしている。 (発言・挙手・カード) 	<p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の筋の大体が分かり、好きな場面やおもしろいところを見つけ、発表している。 (発言・挙手・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や片仮名の読み方や書き方を理解している。 (ドリル・音読)
課題追究	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちとくじらぐもとの出会いの様子を読み取ることができる。 ・子どもたちの真似をするくじらぐもの様子とそれを見る子どもたちの様子を想像しながら読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取ろうとしている。 (発言・音読) 	<p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文中の助詞「も」の働きに着目して、子どもたちとまねをするくじらぐもの様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読) ・正しい姿勢と口形に気を付けて音読している。 (音読)
	2 本時 2 ／ 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い、誘い合う様子を読み取ることができる。 ・子どもたちとくじらぐもの会話に着目し、その様子を想像しながら読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取り、張り切る様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し) 	<p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文に着目し、子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い、誘い合う様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読) ・かぎ(「」)に気を付けて音読している。 (音読)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を読み取り、くじらぐもに乗れてうれしいみんなの気持ちを想像することができる。 ・子どもたちとくじらぐもの会話に着目し、その様子を想像しながら読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取り、くじらぐもに乗れてうれしいみんなの気持ちを想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し) 	<p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとくじらぐもの行動や会話から、くじらぐもに飛び乗る子どもたちの様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読) ・かぎ(「」)に気を付けて音読している。 (音読)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ くじらぐもと一緒に空の旅をする子どもたちの様子を想像し、旅を楽しむ子どもたちの気持ちを読み取ることができる。 ・空の上の様子や子どもたちの会話を想像し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や挿絵をもとに、楽しい空の旅の様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し) 	<p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述や挿絵から、くじらぐもと子どもたちの楽しい空の旅の様子を想像し、夢が叶い旅を楽しむ子どもたちの気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読) ・句読点を正しく使って書いている。 (吹き出し)

		楽しい空の旅を読み取る。		ちを読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)	
	5	○ くじらぐもと別れる子どもたちの様子を読み取ることができる。 ・くじらぐもと別れる時の子どもたちの気持ちを想像する。	・叙述や挿絵をもとに、くじらぐもと別れる子どもたちの様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し)	〈読む〉 ・会話文に着目し、くじらぐもと子どもたちの別れの様子を想像し、子どもたちの気持ちを読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)	・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読) ・句読点を正しく使って書いている。 (吹き出し)
課題解決	1	○ くじらぐもに手紙を書くことができる。 ・物語を読んで、思ったことや考えたことを手紙に書く。	・くじらぐもに進んで手紙を書こうとしている。 (発言・手紙)	〈読む〉 ・物語を読んで、自分が思ったことや考えたことをくじらぐもにあってた手紙に書いている。 (手紙)	・句読点やかぎを正しく使い、文章を書いている。 ・主語と述語の関係に注意して文章を書いている。 (手紙)
書くことの学習	1 2	○ いろいろなものに見える雲の形を絵に描き、お話を作ることができる。 ・屋外に出て、いろいろなものに見える雲の形を絵に描く。 ・描いた雲から想像を広げ、話したいことやお話を考えて書く。	・見つけた雲の形から想像を広げて、絵を描き、雲とどんなことを話したいか、どんなことをしたいかを考えようとしている。 (作成の様子・カード)	〈書く〉 ・いろいろなものに見える雲を見つけ、自分が考えたことを雲に呼びかけたり、話しかけたりするように書いている。 (作成の様子・カード)	・句読点や助詞(は、へ、を)を正しく使い、文章を書いている。 (吹き出し)
	3	○ 見つけた雲から考えたお話を交流し合うことができる。 ・作品を見せながら発表する。	・自分の考えたお話を進んで発表するとともに、友達のお話のよさを見つけようとしている。 (発表・態度)	〈書く〉 ・自分や友達の作ったお話のよさに気付いている。 (発表・態度)	・姿勢・口形などに注意し、はっきりした発音で話している。 (発表・態度)

5 本時の学習（課題追究 2 / 5）

(1) 学習の目標

- ・「ここへおいでよう。」と声を掛け合い、誘い合う会話文を手がかりに、くじらぐもと子どもたちの心のつながりを読み取ることができる。

(2) 評価規準

【読む能力】

- ・会話文に着目し、子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い、誘い合う様子を読み取り、吹き出しに書いている。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師のはたらきかけと評価
課題把握	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習場面と課題をつかみ、学習方法を確認する。	・くものくじらとの出会い場面を想起させる。 ・本時の挿絵を提示し、場面と課題を確認する。 ・一斉読することで課題を把握させる。

と見通し 5分	子どもたちとくじらぐものさそいあうようすをくわしくよもう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「 」に気を付けて読み、くじらぐもや1組のみんながどんな気持ちになっていくのかを考えていくことを示唆し、課題解決につなげるようにする。
課題追究 25分	<p>3 課題解決への見通しをもつ。</p> <p>4 本時の学習場面を音読する。 ・一斉読 ・指名読</p> <p>5 子どもたちとくじらぐもの会話の様子を読み取る。 (1)「ここへ おいでよう。」は、誰が話している「 」部分であるのかを考える。</p> <p>(2) くじらぐもを誘う内容を話し合う。 ・みんなは、くじらぐもにどのように声をかけているかを想像する。 (ペア→全体)</p> <p>6 くじらぐもが、「ここへおいでよう。」と言った時の様子を話し合う。 ・前時に見た空と雲の様子を想起させて、期待いっぱいの子どもたちと自分を重ね合わせ、やってみたいことを想像させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起し、口形と読みの速さに気を付けさせて読むように働きかける。 ・みんなが話したところにサイドラインを引かせる。(一人学び) ・校庭にいる子どもたちの声であることを確認する。 ・「ここ」という言葉を手がかりにし、「ここへ おいでよう。」の後に、どんな言葉が続くのか想像させる。 ・「おうい」「ここへ おいでよう。」が2か所あることを確認し、同一の会話文であることを確認する。助詞「も」について押さえ、応答の様子イメージ化を図る。 ・「おい」「おうい」「ここへ おいで。」「ここへ おいでよう。」のちがいや「大きなこえ」という言葉から、くじらぐもと子どもたちの位置関係に気付かせて、音読で表現できるようにさせる。 ・友達の考えを聞き、お互いが友達になりたがっている気持ちを理解させる。 【教材文とのかかわり】【友達とのかかわり】 ・くじらぐもになりきって、空の魅力をアピールさせる。そして、未知の空の旅の魅力が膨らんでいくように、発表させたい。 ・くじらぐもと子どもたちの心のつながりがより接近してきたことを感じ取らせたい。
課題解決 10	<p>7 「よしきた。くものくじらにとびのろう。」と言って張り切っている様子を想像し、会話文の続きを吹き出しに書く。 (1)くものくじらに飛び乗ろうと決めるまでの様子を想像させる。 (2)吹き出しに書く。 ・期待でいっぱいの気持ちを同化して、書く。 ①どんなことをしてみたいか ②どんなものが見えるか ③雲の背中の様子はどんなか。</p>	<p>【具体的評価規準（方法）と評価の手立て】</p> <p>会話文に着目し、子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い誘い合いながら期待でいっぱいの気持ちの様子を想像して書いている。(吹き出し) (例) よしきた。くものくじらにとびのろう。雲の背中は、ふかふかだろくなあ。いっぱいジャンプするぞ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの観点について記述した子どもには、他の観点についても書かせる。 ・書くことができない子どもには、板書をもとに対話をしながら記述させる。

分	(3) 数名が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数名に発表させる。 ・指名されない児童も自分の書いた内容が誰の内容に近いかを確認する。 ・読み取ったことをもとに、飛び乗ることを決意した気持ちを込めて音読させる。
まとめ 5分	<p>8 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 <p>9 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもと1年1組の子どもたちの心のつながりができはじめたことをとらえたか振り返りをさせる。 ・喜び、張り切る様子を想像させ、次時の場面に期待をもたせる。